

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】令和3年4月8日(2021.4.8)

【公開番号】特開2019-177642(P2019-177642A)

【公開日】令和1年10月17日(2019.10.17)

【年通号数】公開・登録公報2019-042

【出願番号】特願2018-69231(P2018-69231)

【国際特許分類】

B 28 D 5/00 (2006.01)

C 03 B 33/027 (2006.01)

H 01 L 21/301 (2006.01)

【F I】

B 28 D 5/00 Z

C 03 B 33/027

H 01 L 21/78 G

【手続補正書】

【提出日】令和3年2月22日(2021.2.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照して説明する。なお、各図には、便宜上、互いに直交するX軸、Y軸およびZ軸が付記されている。Z軸は、カッター ホイールの中心軸に垂直である。また、図2(a)～図3(b)、図4(c)、図5(a)～図6(b)、図8(b)、図8(c)中の実線Hは、基板Fの表面Hを示している。また、図5(a)～図7(c)中の矢印は、スクライブ方向を示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0046

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0046】

回転軸53を基板Fに対して傾ける、すなわち、ホルダユニット30を基板Fに対して傾けると、スクライビングホイール40は、基板Fの表面Hと接触する位置が変わる。たとえば、図3(b)において、点Aは、ホルダユニット30を傾ける前、基板Fの表面Hにスクライビングホイール40が接触したときの位置である。この点Aに対し、図5(a)に示すように、回転軸53を基板Fに対して傾けた場合、すなわち、軸心Sと基板Fのなす角が85度の場合、スクライビングホイール40が基板Fの表面Hと接触する位置は、点Bである。図5(a)中の実線は、点Bを通り且つ回転軸53と平行な軸Rである。このように、回転軸53を基板Fに対して傾けた場合、スクライビングホイール40において基板Fの表面Hと接触する位置が変化する。